

地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>去年から取り組んではいるが、事業所独自の理念はまだ完成していない。今年度は職員皆で理念を作る予定。</p> <p>○</p>	職員自ら考え、事業所独自の理念を作っていきたい
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>新職員と共に再認識することもあるが日々のカンファレンスや会議などで話し合い実践できるように努めている。</p> <p>○</p>	全体会議等で話し合いを継続し、実践に努めていきたい。
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>パンフレットに記載したり、見学に来られた方等には説明している。運営推進会議や家族会などで説明をしている。</p>	
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>散歩や買い物等に出かけた際は、近隣の方々と挨拶を交わしたりしている。気軽に立ち寄ってもらえるようにはしている。</p>	
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>定期的に、運営推進会議を開催し地域の方に来ていただいたり、施設の行事に参加の呼びかけをしている。小学生やボランティアの方など来られ交流を図っている。今年アゼリアまつりをはじめ開催。</p> <p>○</p>	今後も運営推進会議などを通し地域と交流を図っていくよう努力したい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の方から相談にいられたり、見学にいられたりしている。運営推進会議などで地域の高齢者に役に立てればと発信はしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の結果をカンファレンスや会議などで報告し、改善に努めている。サービス評価の目的を理解し、全職員で自己評価を行っている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の呼びかけはできており、参加していただいている。会議では取り組み状況の報告をし、話し合いをしている。	○	定期的開催し、話し合いをしながら地域の方との交流を深め、サービスの向上に努めていきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議に参加していただいている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度の研修会に参加し、研修報告は行っているが、勉強会は行っていない。	○	研修会をもとに勉強会を開き、理解を深め、利用者の支援に結びつけていきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止についての研修会に参加し、研修報告を行い、職員が同じ認識をもつようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	○	写真つきのお便りを継続していきたい。
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内や外部の研修など色々な研修に参加している。施設内でも毎月学習会をしている。研修報告も全体会議等で報告し、全職員が把握している。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内事業所と交流をもち、意見交換等している。湘北地区ブロック会議やグループホーム部会などで他の施設の方と交流し意見交換している。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	各部署との交流、親睦を年に何回か行い、気分転換をはかっている。面談にて職員の悩みを聞いたり、何かあれば話を聞くようにし、ストレス軽減に努めている。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員ひとりひとり個人目標シートを設け、目標に向けて個々に達成できるように努力している。資格取得にむけての支援は積極的に行っている。健康診断は全職員が実施できるようにしている。	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前にはご本人に会い、ご本人の思いや状態の把握に努めている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用に際して、ご本人、ご家族が不安なことや求めていることなどを聞き、事業所としてどのような対応ができるか話し合い対応するようにしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時にはご本人やご家族の思いをきき、状況を確認し、どのような支援を求めているか見極め対応するようにしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前にはご本人やご家族に見学に来ていただき安心していただけるようにしている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々家事など利用者に出る事をして頂いており職員は助けられているし教わることも多々ある。利用者に対して感謝の言葉を伝えている。利用者から励まされることもありお互い支え合っている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の面会時には、ご本人の様子や職員の思いを伝え、ご家族からも思いを聞き、協力関係を築いている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	施設行事にご家族をお誘いし、本人とのより良い関係を深めている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今までの馴染みの人に会いに来て頂きなじみの人との関係が途切れないようにしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	居室で過ごされているお客様をホールへお誘いし、孤立しないよう、職員を交えてゴミ箱作りや談話をしながら利用者同士が関わり合っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	現在、退居された方への訪問、声かけはしていない状況である。	○	今後、事業所での行事への参加の声かけをおこなってきたい。
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の思い、希望などを聞き、家族の方に伝えている。思いが伝えにくい方についてはご本人の言動から、気持ちを汲み取るようにしている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用時にはご本人やご家族の方にとどのような生活をされていたか聞き、また利用後も知人や面会に来られた方などから生活歴を教えていただき把握している。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	ひとりひとりの生活リズムを把握し対応している。ご本人のできることに注目し、できることは一緒にしていただくようにしている。できることを新しく発見するように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	個別性を生かした介護計画を作成している。ご本人、ご家族からの希望や思いを聞き、取り入れている。カンファレンスをして、職員全員が共通認識している。数名の終末ケア計画を立てている。(主治医、家族と共に)	○	高齢になるお客様への、終末ケアを計画をさらにしていく必要がある。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	見直しは、適宜行っている。(赤字で修正をしたりしている) 評価、修正は月1回行っており、状況の変化があった場合は早急に見直しをし、ケアの統一を図っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルを用意し、ご本人の言動やケアの実践、気づき等をプランに基づいて記録している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご本人、ご家族の状況に応じて、通院や送迎などの支援をしている。医療連携体制を活かし、早期退院の支援や終末期の意思確認をしている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進会議を2ヶ月に1回開き、警察や民生委員の方など地域の方との交流を図っている。公民館の方とも交流を持っている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	訪問理美容サービスに月1回来て頂いて、本人の意向をもとに利用させていただいている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	推進会議に地域包括支援センターの職員の方に参加していただき、関係作りや、周辺情報等の情報交換をしている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望されるかかりつけ医となっている。又、受診や通院は、本人や家族の希望に応じて対応。基本的には家族同行の受診となっているが、不可能の際には、職員が代行するようにしている。利用契約時にその旨を説明し、同意を得ている。		

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	かかりつけ医に、脳神経内科医がおられる為、助言、指示をうけている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員を配置しており、24時間、いつでも連絡がとれるようにしている。 利用者の健康管理や状態変化に応じた支援を行っている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	病院と密に連絡をとりながら、退院後のケアに生かしている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末ケアについて、家族、医師、看護師、介護士を交えて話し合いを行っている。	○	全ての方について終末期ケアについて話し合いをしていきたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	かかりつけ医と連携を図り、急変時の対応について話し合いを行っている。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	他の事業所に移られる際、必要な情報提供をし、細かい連携を心がけている。		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	外部には、いかなる情報も漏らさないようにしている。ひとりひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応はしないように努めている。	○ 今後もプライバシーに気をつけるようにする。 (トイレ等の声かけが目立たないよう配慮する)
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	職員が決め付けず、利用者に自己決定して頂いている。ご本人の意向に合わせ援助している。意思表示が困難な方には表情などから思いを汲み取るようにしている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、本人の希望、体調に合わせて支援している。(食事を遅らせたり、早める等)	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	着替えは、自分でできる方は自分でされる。自分では難しい方は、一緒に選んだりしている。 訪問理美容サービスを利用するだけでなく、たまに一般の(外の)美容院へも行っていただいている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に調理や盛り付け、片付け等をしている。 食事も利用者と同じテーブルで食べ、食事を楽しんでいる。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人の希望される飲み物、果物等をそのつど準備し楽しんでいただいている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	尿量に応じたパットを使用していたり、快適に過ごしていただくよう、ショーツの使用もしている。トイレで排泄できる方はトイレで排泄していただいている。ゆっくり座っていただけるように声がけしている。失敗があってもさりげなく対応している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入りたいときに入っていただくように時間の調整をしている。シャワーとか、浴槽へ入ったり、希望を取り入れて対応している。入浴したくない方には無理強いせずに清潔保持に努めている。現在夜間の入浴の希望はなく、実施していない。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	掛け物、室温調節し、気持ちよく休息できるようにしている。その方が寝られる時間に合わせて居室に帰っていただいている。寝られない時は、テレビを観たり、話したりしていただいている。希望のある方には昼寝やその他好きなときに居室で休息していただいている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食器拭き、洗濯物干し、たたみを出来る方にはお願いして手伝っていただいている。裁縫が得意な方には雑巾を縫っていただいたりもしている。その後は感謝の言葉をかけている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理の出来る方には、お小遣い帳もつけている。ご家族の協力を得て、ご本人の希望で、小額のお金を所持しておられる方もいる。外出時、自分で支払いをされる方もいる。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	行事として、ドライブ等に出かけたり、外食をしている。地域交流している方もおられ、それに参加してもらい、外食をされたりしている。公民館の方の力も借りながら、出来る限りの支援をしている。希望に沿って、散歩や美容院など出かけている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族の協力も得て、法事や墓参り等、たまにお家へ帰っていただいている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば、電話をかけていただくよう支援している。電話かかってきたときは、直接本人にでて話をさせていただくようにしている。その際 ドアを閉め、プライバシーも配慮している。	
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご家族、友人など面会に来られ、面会時にはお茶を出し、居室でゆっくりと過ごして頂けるように配慮している。面会時間は特に定めていない。	
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>			
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全体会議等で話し合い、虐待等の研修会にも参加し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の鍵は日中かけておらず、自由に出入りできる。居室にも鍵をかけていない。日中外に出られる場合は見守り安全に配慮している。夜間は、戸締りの為に鍵はかけている。	
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中、利用者と同じ空間で記録等業務を行っている。居室におられる際にはこまめに見るようにし、所在、様子を確認している。夜間は1時間に1回は必ず巡視している。状況によっては頻回に巡視している。	
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	洗剤等は、目に付くところには置かず、のれん等で目かくししている。利用者に調理していただく際は、必ず職員が隣にしているようにしている。	
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	1人で外出される方には、首元に名札をさげていただき、事故防止に努めている。日々ヒヤリハットを記録し、検討している。事故が起きた場合は事故報告書を書き、対策を検討している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変時対応について、ユニットで話し合い、周知、徹底している。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回、消防署の協力を得て利用者と一緒に避難訓練を行っている。避難経路、消火器の使い方などの訓練をしている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	起こりうるリスクについて、家族と話し合い、了解を得ている。外へ行きたい時等、なるべく一緒に出るようにし、抑圧感のないように努めている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日バイタルを計っている。変化あった時は看護師や管理者に報告し、状況によってはかかりつけ医にも報告し、対応している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利尿剤、血圧の薬、ワーファリン等、大切なものは特に把握している。薬のセット、服薬確認をきちんとしている。薬の内容をファイルに綴じ、いつでも確認できるようにしている。薬のひとつひとつには名前を書き分かりやすくしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	オリゴ糖を使用したり、野菜は根菜類を多く使用するよう心がけている。 生活上での立位や体操も取り入れたりしている。下剤や浣腸を使用されている方もいるがそれに頼りきらないようにできるだけ食事や運動で自然に排便が出るようにしている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、利用者に応じて声がけや見守り、介助している。 口臭予防にモンダミンを使用することがある。毎晩義歯を預かり洗浄している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	全ての方の食事摂取量のチェックをしている。必要な方には、毎日水分チェックもしている。きちんと記録しており、全職員が把握している。 飲み物は、好みに応じて飲みやすい物で対応している。	
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	食中毒の時期、毎日、床をピューラックスで消毒し、夜間には、手すり・椅子にもピューラックス消毒をしている。インフルエンザの予防接種は職員、利用者とも、できるだけ受けてもらうように働きかけている。下痢や嘔吐などの場合はすぐに報告し対応している。	
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日買い物に行き、生物の買い置きはせず、新鮮なものを使っている。まな板や布巾を毎日消毒し、冷蔵庫も毎日消毒している。	
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>			
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りに飾りをつけたり花を飾り入りやすい環境を作っている。また、椅子を置き、誰でも気軽に入れるようにしている。	
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた食べ物(桜餅等)等を一緒に作っている。また、七夕等、笹の葉で飾り付けしたりと、季節感が味わえるよう心がけている。	
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	外などでソファを置くと利用者同士で会話を楽しまれる。又、ホールへ好きな時間に出てこられ、置いてある雑誌を読んだり、テレビを観る等、思い思いに過ごされている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にある物は、今まで使っていた馴染みの物を置いており、生活を心地よく出来るよう配慮している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	居室・ホールなど、一定の時間帯換気している。外気との温度差がある場合、利用者の様子を見て調節している。トイレは、換気扇や消臭剤で悪臭が出ないように気を付けている。		
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	シンクや調理台など、利用者が使いやすい高さにしてあり、廊下や和室などに手すりを付け、自立した生活が出来るよう工夫している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	1人1人に合わせ、門札やトイレの場所など、分かりやすいように表示してある。(一目見てわかるように)		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関には、いつでも座れるように椅子が置いてある。天気の良い時は、戸外スペースにソファを置き外の空気を吸ったり、談笑等楽しめる。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

ご家族、ご本人の希望もあり、終末期ケアの話し合いをしている。今後全員に対して話し合いを持てるようにしていきたい。外に出たい方に対して職員が付き添いお出かけをしている。